

第 28 回滋賀県首長会議

テーマ2「こどもまんなか政策における「こども としょかん」の展開について」より
(令和5年7月18日開催)

【湖南市提案概要】

- 湖南市では子ども読書活動推進計画において、2ページであるが、「未来を拓く力をつける“こなんっ子”たちに『読書の魅力』の種まきを」をモットーに、子どもが本と幸せな出会いをし、本に親しみ、本を楽しむことができるよう、また、子どもたちが読書活動を通して生きる力を育むことができるよう、進めているところである。
- 基本方針は主に3つ挙げている。その中で2つ目の子どもを取り巻く家庭、地域、園・学校が連携・協力した取組ということを非常に大切に考えている。
- 湖南市では電子図書館を平成30年11月に開設している。導入の効果については、やはり電子であるので、場所や時間に制限なく、電子書籍を活用いただけるということがある。また、GIGAスクールの構想で整備した児童・生徒の1人1台端末で利用することも可能である。
- このため、児童・生徒のそれぞれの背景に応じた図書の親しみ方、貸し出しについての電子図書館の電子書籍を使っていただければ、活用が進むのではないかと考えて、いままで図書館に行かなければ本を借りられなかった方々にも、本に親しんでいただける。そういうことで利用のしやすいツールになるというメリットがあるというふうに考えている。
- 県が言うところの「こども としょかん」というのは、よく分からない。例えば、本を読まない子の数字をできるだけ減らすのが目的なのか、貸し出しの本の数を増やすのが目的なのか、何を目的に「こども としょかん」というふうに言っておられるのかよく分からない。

【県資料説明概要】

- 「こども としょかん」については、去年の今頃行われた知事選挙で私が公約の中に掲げて、「こども としょかん」の設置検討ということを提起させていただいた。
- その時は確かにハードで「こども としょかん」というものを設置することも検討したが、その後の議論の中でやはりハードものでどこか1カ所ということが、子どもの図書館、子どものための図書館サービスとしてどうなのかということのご意見、ご提起等もいただき、今からご説明する資料2-2のような形で、現在、県が目指す「こども としょかん」の姿、そして基本方針、まだ案の案であるが作ろうとしているところである。
- まず、コンセプトを4つ、そのために目指す姿として、全てのこどもが身近な学校や地域の人々との関わりにより、本に親しんで、「本を読んで楽しかった」「本で知りたいことが分かった」「調べる楽しさを知った」「困難なときに寄り添ってくれる本に出会えた」という、こういう体験が得られる滋賀をつくろうということで、コンセプト1、ど

こども「こども としょかん」、コンセプト2「支える人」を支える「こども としょかん」、コンセプト3、子育て世代に優しい「こども としょかん」、そしてみんなでつくる滋賀県まるごと「こども としょかん」、この4つのコンセプトで現在議論を進めている。

- 今後の展開案としては、県立図書館に全県ネットワークにおける子どもの読書活動の総合的支援を行う、また総合調整を行う、子ども読書支援センター機能を付与して、それぞれの市や町の図書館行政の悩み事をカバーできるような、そういう取組ができればと考えている。

【各市町長発言概要】

- 今回のテーマのそれぞれのコンセプトを挙げていただいているが、学校図書館の司書をはじめとして、たくさんの方々をしっかりと支援していこうということを大きな柱として掲げているのかなという思いがする。

学校図書館の支援ということで、イメージとして置いているのは、週に大体何日ぐらいであるのか、教えていただきたい。

- 外国語の資料を借りる小学校が増えてきているが、県と市のシステムが異なるので、データ作成にかなり時間を要しているようだ。「こども としょかん」構想においては、市外から取り寄せる資料についても、どうやったら早く効率的に提供できるのかということも、ぜひシステムも含めてご検討いただきたい。

このデジタル化、電子については、県がボールを持って何か一本化して進めていく方が安く、効率的なのかなと思っているので、その辺りについてもぜひご意見をお聞かせいただきたい。

- 県民全体にやはりサービスを提供するに当たって、電子書籍は非常に重要だと思う。長野県の例もあるので、県に音頭を取っていただいて、全域的に整備をしていく形というのは、今直ぐというわけじゃないが、今後のビジョンとして非常にありだと思う。

- 実現、現実的にできるレベルなのか。高過ぎて、それだったらアナログの方が安いという話なのか。いま実際にやられていて、県が頑張ってくださいたらできるのかというレベルなのか、もしご意見があればお願いしたい。

【湖南市発言概要】

- 電子図書館システム自体はいったん整備してしまうと、あとは保守料だけであるので、それほど高額なものではない。ただ、電子書籍自体のコンテンツがまだ非常に少ない。公立図書館で貸し出しできる電子書籍のコンテンツが少ないということが一番の課題があらうかと思う。

【知事発言概要】

- 学校図書館の司書、これはまさに全県的にも先駆けてやっていただいている「こども としょかん」というから、何か県が支援してくれるのと違うかなと思われているか

もしれないが、これも交付税措置で市町に入っているのです、ここは市町でやっていただくということが基本である。地財措置は、小中学校とも 1.3 校に1名ということである。

- 外国籍の子どもの外国語の資料について、現場でお困りのことは早急に確認して、どうことができるのか対応したいと思う。このようなことこそ、県がしっかり役割を果たしていかなければならないことかと思う。
- 電子図書館、ならびに電子書籍に関することは、「子ども読書支援センター」を設置し、センターの中で長野県を参考にしながら、どういう作り方が良いのか考えていけたらいいなと思っている。

【各市町長発言概要】

- 北側地域からは県立図書館は非常に使いにくいので、ぜひサテライトを作って欲しい。先日、小学校に行ってきたが、朝 10 分間の読書活動というので、地域のボランティアの人が絵本を広げて説明している。1年生から6年生までみんな食い入るように見ていた。一人で見るときと違って、地域の大人が説明しているのを本当に一生懸命聞いていた。
- 時代が求めているものはあるが、結局はデジタル化したということは、辞書的な形の使い方は良いかもしれないが、本物の本を読み込んで、それを自分のものにするということについては、やはりなかなかだと思う。古いものにもそれなりの良さがあると思っているし、そこを十分県は理解いただきたい。

【知事発言概要】

- 基本として町と市と県の図書館行政のネットワーク、これは私も知事になってから、こんなに太く密に作られているのかいうことを実感している。私も年に1回、各図書館長と意見交換を行っている。このネットワークの中で、それぞれの町にない、市にない、県にないものを融通し合って、本を届けるサービスもやっているのです、これは整え続けていきたいと思う。
- リアルに子どもに読んで聞かせるとか、本に触れさせるとか、これはやっぱり基本だと思う。学校図書館もそうである。今後、さらにより良くするためにはどうしていったらいいのかを考えた上で、時代の流れである電子図書館サービスを構築していくことを考えていきたいと思う。
- 県立サテライト図書館を作るつもりはないが、今あるネットワークをより良くするために、ぜひ一緒に考えていきたい。